

東京スカイツリー®は 私の希望の道標です

株式会社 大林組
本社秘書室勤務

山宮 聡子

創価女子短期大学
現代ビジネス学科卒業

創価大学・創価女子短期大学は、開学以来、「学生のための大学」「社会に貢献する大学」を掲げ、人間教育に力を入れてきました。卒業生は国際機関をはじめ、経済界、法曹界、教育界など幅広い分野で活躍しています。



東京スカイツリー天望回廊で

二〇一二年五月二二日、天空にそびえ立つ東京スカイツリーがオープンした。高さ六三四メートルはもちろん世界一の自立式電波塔である。このタワーを含む東京スカイツリータウン®全体の来場者数は一週間で百万人を突破。日本の新たな希望のシンボルとなるとともに、低迷する日本経済の活性化につながるものと大きな期待が寄せられている。

「一番心に残っているのは、私たち職員だけでなく建設に携わる全ての方々が、世界に誇れる建造物をつくっているという高い意識を共有していたことです」

施工した(株)大林組の現地事務所に本年三月まで勤務した山宮聡子さんは、こう語る。

「東京スカイツリーは高さや形状だけでなく、スカイツリーホワイトと呼ばれる藍白をベースにしたオリジナルカラ

ーや繊細に編みあげられたよ
うな外観も魅力です」

その建設は、数ミリ単位の精度管理を要する緻密な作業の積み重ねで成り立っている。工期およそ三年半の間に、延べ五八万人が建設に関わったとされる。

「あらゆる工事において品質面、安全面に万全を期すことは当然ですが、スカイツリーは百年後にも残る仕事。それだけに工事に携わる全ての人
が、品質面、安全面に一層の注意を払っていました」

「スカイツリーのことは海外でも話題らしく、中国の航空会社にいる先輩やカナダに留学中の友だちに、スカイツリーで仕事をしていると言ったら凄いなとびっくりしていました」

建設が終わった今は、秘書室で働く。

「スカイツリーを見上げる人たちの顔って、みんないい顔してるんです。私も、落ち込むようなことがあっても、帰りの電車で日暮里駅のあたりからライトアップされたスカイツリーが見えると、何があっても大丈夫と元気が湧いてきます。人はあれほどのものがつくれるんですから」

今は最高の職場で仕事を一つひとつ精一杯やり遂げることが一番の望みだという山宮さん。東京スカイツリーは、日本の希望であるばかりでなく、山宮さんにとっても希望の道標となっている。



Sakiko Yamamiya

やまみや・さとこ／一九八九年千葉県生まれ。二〇〇八年三月、茨城県立牛久高等学校卒業。同年四月、創価女子短期大学現代ビジネス学科入学。一〇年三月、同短大卒業。一般企業の事務職を経て、一年一月、派遣社員として(株)大林組新タワー建設工事事務所に勤務。二〇一二年三月まで。二年四月より(株)大林組本社秘書室勤務。

